

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500237		
法人名	(医)加茂医院		
事業所名	グループホームやすらぎの丘		
所在地	佐賀県伊万里市大坪町甲2269-6		
自己評価作成日	令和4年12月27日	評価結果市町村受理日	令和5年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和 5 年 1 月 20 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①月曜日から土曜日の午前中母体の医院から看護師が来て処置・容態観察を行い主治医に報告している。
②週1回の往診時にはホームの看護師が立ち会って指示を受けています
③夜間も主治医と連絡がとれ指示をもらっている
④コロナ禍であるが家族様や本人様の強い要望面会(硝子越でドアを閉める)がある時は主治医の許可をもらい行っている
⑤コロナ禍で外出も出来ないので、毎月ホームで行事を行っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小高い丘の上にある閑静な住宅地の中に立地し、見晴らしがよく緑に囲まれた環境に位置している。リビングから外に出ると広い庭が整備されており、気候が良い日は外気浴や四季の景色を楽しむことができる。協力医療機関の看護師がほぼ毎日ホームに訪問し、入居者の状態を見て主治医に報告するなど、医療との連携が密に図られている。コロナ禍においても、家族等とのつながりが途切れないように、安全対策を講じた上で面会を行ったり、入居者の様子を動画や写真で家族にお知らせするなど、様々な工夫をしながら支援がなされている。職員にとって提案や意見が言いやすく風通しの良い職場環境であり、職員の定着率も高い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	ユニット名	ユニット名		ユニット名	ユニット名
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域との関わりを大切に」と毎朝唱和している。地域のサービスを利用している方もいる。	「地域との関わりを大切に」と毎朝唱和している。	ホーム内に理念を掲示し、職員は毎朝の申し送り時に唱和している。就職時には理念やその意義を共有する事から始まり、理念に基づいたケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長様との協力もあり、消防訓練も地域の方が参加して出来た。運営推進委員の方よりご家族様の認知症の相談があった。	区長様との協力もあり、消防訓練も地域の方が参加して出来た。	消防訓練の際には、地域住民の参加もあり、日常的に交流が行われている。また、在宅介護や利用についての相談を受ける事もあり、地域とのつながりが図れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症になられた奥様のご主人や一人暮らしのお母様が軽度の認知症の知見者がおられるので、認知症の勉強や対応の仕方等行った。	運営推進会議で認知症になられた奥様のご主人や一人暮らしのお母様が軽度の認知症の知見者がおられるので、認知症の勉強や対応の仕方等行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事例の報告や入居者様の様子を報告をし意見を頂いている。その内容をユニット会議で報告しケアに活かしている。	事例の報告や入居者様の様子を報告をし意見を頂いている。その内容をユニット会議で報告しケアに活かしている。	2か月に1回地域の公民館で開催し、行事報告、意見交換、勉強会等を行っている。コロナ禍においても、時間を短縮して開催するなど、工夫しながら継続して実施できている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新しく入居された方の希望でリハビリをしたいと相談されて市役所に相談し回答をした貰った。在宅に戻りたいと希望の方の対応を包括と相談した。	介護保険関係の書類が家族様に送付できなくなった事で市より相談があり家族様に相談し送付先変更を行った。	行政の担当者は運営推進会議にも参加しており、相談しやすい関係が構築できている。ホームの空き状況等について問い合わせもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回身体拘束委員会を開きその内容をユニット会議で周知したり、身体拘束の研修(身体拘束がもたらす弊害や拘束が拘束を生む(悪循環)の勉強も行った。	3か月に1回身体拘束委員会を開きその内容をユニット会議で周知したり、身体拘束の研修(身体拘束がもたらす弊害やも行った。	3か月に1回身体拘束に関する委員会を開催しており、身体拘束に繋がる可能性のあるケアについて考察し、代替策を検討している。委員会の内容は職員会議で周知を行い、実践に取り組んでいる。玄関も施錠されていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月ヒヤリハット委員会を行い問題行動が無いか確認している。R6の施行のため虐待防止委員会の設置を検討している。	毎月ヒヤリハット委員会を行い問題行動が無いか確認している。R6の施行のため虐待防止委員会の設置を検討している。		

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市社会福祉協議会の安心サポートを利用されている方がいるので、その内容をユニット会議で利用方法等を周知した。	Aユニットで市社会福祉協議会の安心サポートを利用されている方がいるので、その内容をユニット会議で利用方法等を周知した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に家族様と管理者が時間を作り意向や疑問点について話し合いをしている。	契約時に家族様と管理者が時間を作り意向や疑問点について話し合いをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アセスメント時に本人様と家族様の意向を聞いている。ケアプランに反映し職員全員が実施している。面会時も意向がある時は周知をし出来る事は反映している。ホームの入り口横スペースに意見箱を設置している。	アセスメント時に本人様と家族様の意向を聞いている。ケアプランに反映し職員全員が実施している。面会時も意向がある時は周知をし出来る事は反映している。ホームの入り口横スペースに意見箱を設置している。	玄関に意見箱を設置している他、家族の面会や利用料の支払い時には、必ず職員が日頃の生活の様子を伝え、意見や要望を聞き取るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主人を通し定例会議の時に意見や提案している。又ユニット会議の時に職員が直接意見や提案することがある。	主人を通し定例会議の時に意見や提案している。又ユニット会議の時に職員が直接意見や提案することがある。	普段から職員が意見を言いやすい雰囲気があり、出た意見や提案については、職員会議の中で検討を行い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役職手当や資格手当もあり、残業手当もある。職員の人数の確保されているので、有給もとやすい。	役職手当や資格手当もあり、残業手当もある。職員の人数の確保されているので、有給もとしやすい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受けられる機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍前は外部研修にも積極的に参加していたが、今は自設研修のみである。新人の研修はベテランの職員と一緒に組んで指導をする。その後もその職員に合った言葉かけやカバーをして育てている。	コロナ禍前は外部研修にも積極的に参加していたが、今は自設研修のみである。新人の研修はベテランの職員と一緒に組んで指導をする。その後もその職員に合った言葉かけやカバーをして育てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で勉強会やネットワーク作りは活動が出来ていない現状。	コロナ禍でもあり交流は無い。		

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様・家族様の意向などを契約時にお尋ねしケアプランに取り入れている。	契約時に家族様の意向や本人様の性格等をお聞きしてホーム生活を安心して過ごせる様工夫をしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族様と管理者が時間を作り意向や要望を聞いている。ターミナルの話もしている	契約時に家族様と管理者が時間を作り意向や要望を聞いている。ターミナルの話もしている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご主人が肺癌の末期が分かり本人様と家族様の要望で入居が決まり最後を看取られたり、契約中にご主人が亡くなられその後の法事等の外出の許可も許可をした。	歯科衛生士の訪問を希望される方のサービス利用をしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理が好きな方に朝の味噌汁の具を切って頂いている。洗濯物をたんだりして頂き居場所作りをしている。入居者様に今月の目標を考えて頂き昼食前に唱和されてケアに取り込んでいる。	一緒に体操やレクリエーションをしたり、ドライブに出かけている。日常生活の中の談話で傾聴・共感・受容を心掛けている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月利用料を請求を発送する時に入居者様の最近の様子の写真と担当者がコメントを書いて報告している。硝子越の面会は出来る様になっている。	毎月利用料を請求を発送する時に入居者様の最近の様子の写真と担当者がコメントを書いて報告している。硝子越の面会は出来る様になっている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのかかりつけの病院の定期的な受診の対応は行っているがコロナ禍のために殆ど外出は出来ない。どうしても仏様参りを希望される方は家族様の協力で出来た。	コロナ禍で外出も出来ないが、本人様の強い願望があり自宅に帰って気分転換ができた。	コロナ禍により、外出や面会に一部制限はあるものの、家族の協力を得ながら一時帰宅等の支援を行い、馴染みの関係性を継続するための取り組みが行われている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	カルタ取りもその方が出来る事を優先して頂いているので、皆様が参加している。(耳が遠い方はホワイトボードに書いている)	気が合う方同士よくおしゃべりをされている。隣の方の世話をやいたりされ会話が多い。			

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	肺癌の末期でご主人が亡くなられたが、家族様の意向もあり奥様がそのまま入居されており法事の時の外出等支援している。	お母様が植えていたバラが咲いたらホームに持って来られたり、家に溜まった古新聞を持って来られる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	夜間部屋でテレビをみたい方はヘッドホンを使用して見た時に見ておられる。体操や歌を歌ったり、意向に添って職員も一緒に行っている。意向が伝えられない方は意欲的になれる事をしてもらっている。	ケアの中で会話する時間を作り困ったことが無い？意向を聞く時間が多いので思いを反映している。意向を伝えられない方は何をすると笑顔になれるか観察しケアに生かしている。	入居者の意見を聞き取り、意向の把握に努めている。意思表示が困難な方については、日常生活やレクリエーション時の反応を見て感情を考察し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	調理の得意な方は味噌汁の具を切って頂き「出来る事があって嬉しい」と笑顔で言われる。	本人様からお聞きしたり、家族様に生活歴を聞いてケアに活かしているが、家族様が知らない事でも本人様が楽しそうにされる事も行って頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	花の手入れをされたり、ベランダのベンチで日光浴をされたり、歌を歌ったり、おしゃべりをして本人様の意向で生活されている。	入居者様の表情や体調に合わせ、レクリエーションをされたり、ドライブにお連れしたり、散歩をしたりと個別に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状況が変わった時は主任に相談している。家族様に相談や報告の必要がある時は主任が架電している。毎月のユニット会議で情報の共有を行ったり、モニタリング時に担当者が家族様の意向聞いてケアプランを作っている。	状況が変わった時は主任に相談している。家族様に相談や報告の必要がある時は主任が架電している。毎月のユニット会議で情報の共有を行ったり、モニタリング時に担当者が家族様の意向聞いてケアプランを作っている。	担当職員が本人や家族に意見を聴取しながらアセスメントを行い、職員会議で他の職員にも意見やアイデアをもらう事で、それぞれの意見を反映した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りや個別の介護記録・やすらぎ日誌にも記録し情報の共有をしている。変更が必要な時は主任と相談し対応している。	毎日の申し送りや個別の介護記録・やすらぎ日誌にも記録し情報の共有をしている。変更が必要な時は主任と相談し対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけの病院受診や自宅に帰りたいと希望された方は包括と連携して対応したが状況が変わり今も入居中。	家族様の意向で衛生士に定期的に訪問している。		

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	気候が良い時は近所を散歩して下肢筋力の向上や気分転換を図っている。	季節ごとにドライブにお連れし喜んでおられ気分転換になられている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけの病院受診を希望される方は定期的にお連れしている。週1回の往診もあるので、その時は主治医に相談している。他科受診が必要な方は家族様の意向を聞いてお連れしている。	週1回の往診もあるので、その時は主治医に相談している。他科受診が必要な方は家族様の意向を聞いてお連れしている。	入居時のタイミングで協力医療機関に変更される方が多いが、元々のかかりつけ医を継続する事もできる。その際は、受診時の送迎や付き添いもホームで支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝バイタルチェックと容態について母体の病院に報告している。母体の病院から毎朝看護師が訪問して、処置や容態観察を行い主治医と連携している。	毎朝バイタルチェックと容態について母体の病院に報告している。母体の病院から毎朝看護師が訪問して、処置や容態観察を行い主治医と連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	検査や入院の場合は紹介状を持っていっている。その後も洗濯物を取りに行く時状態の確認を行ったり、地域連携室と連絡を取って退院の調整も行う。	検査や入院の場合は紹介状を持っていっている。その後も洗濯物を取りに行く時状態の確認を行ったり、地域連携室と連絡を取って退院の調整も行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に家族様に説明をしている。ターミナルに近づいた時は、事業所で出来る事を家族様と話し合い承諾書を頂いている。職員は研修を行ったり会議で話し合っている。待機の職員も決めている。	契約時に家族様に説明をしている。ターミナルに近づいた時は、事業所で出来る事を家族様と話し合い承諾書を頂いている。職員は研修を行ったり会議で話し合っている。待機の職員も決めている。	看取り介護は対応可能であり、入居契約時に重度化や終末期に向けた方針について説明を行っている。緊急時の対応をマニュアル化し、連絡体制を整備する事で、職員の安心につながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署から来てもらい年に一度AEDの研修を行ったり(全員参加)急変時のマニュアルも作成している。	消防署から来てもらい年に一度AEDの研修を行ったり(全員参加)急変時のマニュアルも作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年に2回行うが夜間を想定して行ったり、スモークを焚いて訓練を行った。その都度反省会をしている。、地区の方に一緒に参加して頂き水消火器で消火訓練を行った。	消防訓練は年に2回行うが夜間を想定して行ったり、スモークを焚いて訓練を行った。その都度反省会をしている。、地区の方に一緒に参加して頂き水消火器で消火訓練を行った。	年に2回消防避難訓練を実施しており、消防署の立ち会いや地域住民の参加もある。その他、地震や土砂崩れの対策マニュアルを作成し、訓練も実施している。	

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴に応じて対応したり、認知症の進行で出来る事出来ない事が出来て来られるので、ホームでの生活で知り得た人格に応じて、職員が定期的な会議で情報の共有し個別のケアを行っている。	生活歴に応じて対応したり、認知症の進行で出来る事出来ない事が出来て来られるので、ホームでの生活で知り得た人格に応じて、職員が定期的な会議で情報の共有し個別のケアを行っている。	トイレにはカーテンを設置するなど、プライバシーの確保に配慮されている。スピーチロックや接遇に関する勉強会を行っており、人格を尊重した丁寧な対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずご本人がどうしたいのかじっくりと観察しそれに応じた言葉かけや助言をして発言や行動を促す。	何でも職員が済ませるのではなく本人様の思いや希望を引き出し自己決定実行の形を作る。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自らされる事をそっと見守り何に興味を持たれ生き生きとされるか気に掛ける。状況作りのお手伝いにも気を配るようにする。	本人様の体調や気持ちを見ながら一人一人のペースを大事に希望に沿って過ごして頂く。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡を見る機会を作ったり、服を選ぶことが出来る方は着ておられる服を誉めたり朝の整容は鏡を見て髪をとかされている。	起床時は鏡をみて整容して頂いている。自分で服を選ぶ事が出来る方は好きな服を着ておられ選ぶ事が出来ない方はこちらでオシャレに配慮している			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に目を通して頂き食事に対する期待を高めたり食材の切り出し、食器の片付けを手伝ってもらう事で楽しみを味わって頂く。肉が嫌いな方や刺身を食べられない方は別メニューを提供している。	一人一人の食べられ方を把握し側に付いて美味しく食べやすいような環境を作っている。その状況でお粥や刻み食にしている。	食事はホームで調理されており、入居者は食材を切ったり、テーブル拭きを職員と一緒にしている。入居者から献立のリクエストを聞くなど、食事を楽しむ支援がなされている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師が栄養バランスを考えたメニュー作りをしている。各テーブルに職員が座るようにして状況を把握し個別に量の加減も行っている。	調理師より栄養バランスの良い食事の提供は出来ている。ほぼ皆様全量摂取されているし、水分摂取も言葉かけや介助により支援が出来ている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは見守り言葉かけを行い、仕上げがうまく出来方は職員が介助して清潔が保持出来ている。月曜日は歯ブラシコップの消毒も行っている。	毎食後口腔ケアは実施している。一人で出来る方は言葉かけを行い磨き残しがある方は介助を行ったり個別に応じている。			

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツを使用されていた方は、ホワイトボードに排尿時間を記入し失敗が無いように誘導したり本人様に言葉かけをする事で布パンツになられた。	尿意・便意が無い方は、起床時、就寝前、食事の前後、おやつの前に誘導したり、会議で情報の共有を行い今の状況に合った誘導を行っている。おしっこに行きたいと言われる方で排尿されない時もお連れしている。	入居者それぞれの排泄間隔の把握に努めている。日中だけでなく、夜間もできるだけトイレで排泄ができるよう声かけや誘導を行い、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の献立を多く取り入れたり、定期的な水分補給。毎日の体操や散歩をして頂いたり頑固な便秘の方はセンナ茶を毎朝飲んで頂いている。	便秘予防の為水分補給の言葉かけをし、中々飲まない方はかき氷を食べて頂いたり工夫して個別に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴で本人様がゆっくり入りたい方はその方の意向に添って入って頂いているが必ず職員が見守りを行い言葉かけも行っている。冬至はゆず湯に入って頂いた。	入浴の言葉かけを行い、本人様が望まれない場合は別の日に変更した。	基本的には3日に1回のペースで入浴を実施しているが、本人の希望や入浴日の変更に対応できるよう、いつでも入浴できる体制を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は本人様の意向に添って、居室で休まれたり、リビングで談話、テレビを見て過ごされる。夕食後はテレビを見たい方は21時頃まで見られて寝られる。部屋で見ている方もいる。定期的な巡回も行っている。	夜間は個々に言葉かけを行い本人様のタイミングで入床頂いている。夜間中々眠れない方は日中に体を使ったゲーム等を促し入眠出来る様に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居時に服用の薬の内容を回覧して情報の共有を行っている。週1回の往診や他科受診で追加や変更の時も回覧している。	日頃と違った変化がある時はバイタル表に記入しFAXを母体の病院にし医師に報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理が得意な方は毎朝味噌汁の具を切ったり、塗り絵が得意な方も他の方に見て頂き満足されたり、体操やカラオケ等個別に対応している。	天気が良い時はペランダに行き日光浴や自宅で花を育てていた方は花がら積や生け花をされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で中々が出来ないがどうしても自宅の仏様参りをしたいと希望があった時は主治医に許可をとり、家族様の協力で行った。	コロナ禍で中々が出来ないがどうしても自宅の仏様参りをしたいと希望があった時は主治医に許可をとり、家族様の協力で行った。	コロナ禍以前と比べると外出する頻度は少なくなったが、気候が良い日は入居者の希望を聞きながらドライブに出かけたり、ホーム周辺を散歩することで、入居者の気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	Aユニット	Bユニット	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	かかりつけの病院の販売店で買い物をされる援助をした。どうしても通帳を自分で管理をしたいと希望がある方は家族様と話し合っって持っていた。おやつの時(おやつに金額を張ったもの)財布を渡し買って頂いた。	金銭管理を出来られる方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を持っている方もいる。希望がある方は電話したり、かかって来たときは変わって話をして頂いた。	携帯電話を持っている方もいる。希望がある方は電話したり、かかって来たときは変わって話をして頂いた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は気の合う方と座っておしゃべりをしながら食べられている。トイレはカーテンで仕切って見守りも出来るがプライバシーも守られるようにしている。浴室も入浴時は洗面所とカーテンで仕切っている。季節に応じた掲示をしている	食堂は気の合う方と座っておしゃべりをしながら食べられている。トイレはカーテンで仕切って見守りも出来るがプライバシーも守られるようにしている。浴室も入浴時は洗面所とカーテンで仕切っている。季節に応じた掲示をしている。	太陽の光が差し込む明るいリビングで、入居者が思い思いに談話されたり、穏やかに過ごされている。季節ごとの飾りつけや、入居者の作品等も展示されており、居心地よく過ごせる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	休みたい方や部屋でテレビを見たい方は本人様の意向に添って過ごして頂いている。気の合った同士でおしゃべりをしたり、他のテーブルの方でも入居者様同士で言葉かけを行い歌を歌ったり、おしゃべりをされている	本人様の意向に添って部屋で休まれたり、花を好きな方同士でベランダでプランターに花を植えたり散歩したりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居直前にご主人様が亡くなられたので、仏壇や自宅で使っておられたドレッサーを持って来られている。若いころ、のど自慢大会で優勝されたトロフィーを飾っておられる。	お孫様の写真やテレビを持って来られている。化粧箱を持って来られ、朝・夕自室で整容されている。	居室にはテレビや仏壇など、自由に私物を持ち込むことができる。入居者の生活動線に合わせてベッドや家具の配置を検討し、安心して過ごせる配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理が得意な方は味噌汁の具を切ったり、尿意・便意がある方は車椅子や手引きで対応している。	安全に移動できるようにバリアフリーだったり、居場所が確認できる環境整備を行っている。日中部屋で休まれている方はセンサーを設置している。		